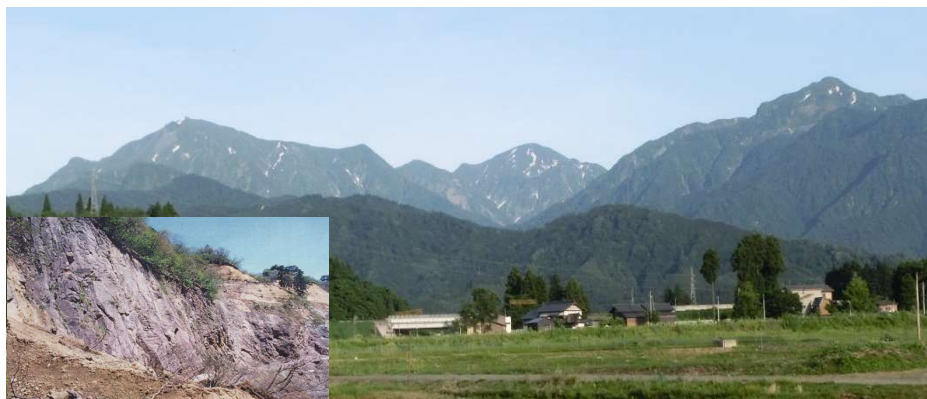


令和2年度「大地の会」地学講座

岩石の種類やでき方から足もとの大地をさぐる



越後三山（左から駒ヶ岳・中ノ岳・八海山）の地質は古生代から新生代の岩石です。このころ日本海はまだ無く、日本列島は大陸の縁でした。

他方、釜沢石（左下、かつての採石場）は 250 万年前（白岩層堆積時代）の海底火山が活動していたころの火山島の岩石と考えられています。

●会 場：越路総合福祉センター3階（長岡市来迎寺）

●受講料：会員500円、一般1,000円

●定 員：45名

●申込み：9月10日（木）までに電話、FaxまたはMailで申込みください。

電話0258-92-5910 Fax0258-92-3333（長岡市越路支所地域振興課）

Mail:koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp（大地の会事務局）

- ① 新型コロナウイルス感染拡大に配慮して密状態となる野外観察会は行いません。
- ② 会場では衛生対策として参加者の体温測定を行うとともに消毒用アルコールを用意します。
- ③ 講座開催時にはマスクの着用をお願いします。
- ④ 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては講座を中止することがあります。

日程・内容

回	日 時	演題等	講師
第1回	9月25日（金） 開講式：19:00～19:10 講 演：19:10～20:40	講演「越後三山の地質から探る大地の 生い立ち」 －日本列島の大陸時代－	糸魚川フォッサマグナ ミュージアム館長 竹之内 耕 氏
	新潟県を代表する越後三山（駒ヶ岳・中ノ岳・八海山）は、山容も個性的ですが、地質もそれぞれ違います。越後三山を知ると、日本列島が大陸から離れて日本列島ができていくようすがわかります。駒ヶ岳は大陸の地下深くでできた岩石からできており、中ノ岳は地下深部のマグマが固まった岩石で、同様な岩石が糸魚川にもみられます。また、八海山の八ツ峰は大陸が裂けて日本列島が産声をあげた事件を物語る地層です。		
第2回	10月 2日（金） 講 演：19:10～20:40	講演「グリーンタフ(緑色凝灰岩)とは」 －堀や敷石など古来石材として親しまれてきました－	新発田商業高校 非常勤講師 佐藤 和平 氏
	最初に、自然を研究する時の見方や岩石研究の重要性をお話します。ついで、日本列島に広がる「グリーンタフ」についてお話します。新潟県が深海底だった1500万年前（新第三紀中期）は、活発な海底火山活動の時代です。そのとき発生した火山灰層はなぜ緑色になったのでしょうか？ 守門岳の基盤や五十嵐川上流にグリーンタフが見られます。グリーンタフとともに中越地域の土台が作られていった変動の時代のお話をします。		
第3回	10月 16日（金） 講 演：19:00～20:30 閉講式：20:30～20:40	講演「マグマからできた石いろいろ」 －釜沢石、楯形山溶岩、爪石、みんな同じ安山岩－	法政大学第二中・高等学 校副校長 五十嵐 聡 氏
	マグマからできる岩石の特徴を学びます。火山の噴火の様式の違いとともにその岩石が現実にどんなところで、どんな形でみられるのでしょうか。苗場山麓ジオパークの鳥甲火山を例に、火山噴火の経歴とともに変化していく噴出岩。そして関田山脈周辺の火山岩との違いなどについて学びます。“安山岩”と呼ばれる一群の中には、釜沢石、楯形山溶岩、爪石もあります。その共通点と相違点についても迫りたいと思います。		

主催：大地の会・長岡市越路公民館